

## 2025年度 学科別授業科目一覧表 (実務経験表記あり)

課程：工業専門課程

学科：情報処理科/システム開発コース

NO.	授業科目	学年	授業時間数	単位	必須・選択	講義・実習	実務経験
39	Java演習Ⅲ	2	60	4	必修	実習	無
40	Java資格対策	2	30	2	必修	講義	有
41	モバイルアプリケーション開発	2	60	4	必修	実習	無
42	C言語文法Ⅰ	2	30	2	必修	講義	有
43	C言語文法Ⅱ	2	30	2	選択	講義	有
44	C言語演習Ⅰ	2	60	4	必修	実習	有
45	C言語演習Ⅱ	2	60	4	選択	実習	有
46	JavaScript	2	60	3	必修	実習	有
47	Python	2	60	4	必修	実習	有
48	データサイエンス	2	30	2	必修	講義	有
49	AI基礎	2	60	4	必修	講義	有
50	データベース演習(SQL)Ⅰ	2	60	4	必修	実習	有
51	Oracle DBA	2	60	4	必修	実習	有
52	C C N A Ⅱ	2	60	4	選択	実習	無
53	C C N A Ⅲ	2	30	2	選択	実習	無
54	サーバ構築	2	30	2	選択	実習	無
55	市場調査/要件定義	2	30	2	必修	実習	有
56	UMLⅠ	2	30	2	必修	講義	有
57	UMLⅡ	2	30	2	必修	講義	有
58	LinuxⅠ	2	60	4	必修	実習	有
59	LinuxⅡ	2	60	4	必修	実習	有
60	卒業制作Ⅰ	2	60	4	必修	実習	無
61	卒業制作Ⅱ	2	30	2	選択	実習	無
62	卒業制作Ⅲ	2	30	2	選択	実習	無
63	エクスターンシップⅠ	2	60	4	選択	実習	無
64	エクスターンシップⅡ	2	60	4	選択	実習	無
65	セキュリティⅡ	2	30	2	必修	講義	有
66	セキュリティⅢ	2	30	2	選択	講義	無
67	基本情報対策Ⅳ(科目A対策Ⅱ)	2	30	2	必修	講義	無
68	基本情報対策Ⅴ(科目B対策Ⅱ)	2	30	2	必修	講義	無
69	国家試験対策Ⅰ	2	30	2	選択	講義	無
70	国家試験対策Ⅱ	2	30	2	選択	講義	無
71	セキュリティマネジメント対策Ⅲ	2	30	2	選択	講義	無
72	M O S 対策Ⅲ	2	30	2	選択	実習	無
73	I T D X 論文研究	2	60	4	選択	講義	無
74	社会人教養 (IT系)	2	30	2	選択	講義	無
75	社会人教養 (資格取得系)	2	30	2	選択	講義	無
76	一般常識Ⅱ	2	30	2	必修	講義	無
77	Python English 基礎英語Ⅱ	2	30	2	必修	講義	有
78	表現技法	2	30	2	選択	講義	無
79	体育実習Ⅱ	2	30	2	必修	実習	無
80	体育実習Ⅲ	2	30	2	選択	実習	無
81	社会人教養 (非IT系)	2	30	2	選択	講義	無
82	課外活動Ⅱ	2	15	1	選択	実習	無

# 東京電子専門学校

開講課程		開講学科	開講年度		履修対象
工業専門課程		情報処理科/システム開発コース	2025		2年 前期
講義区分	授業形態	授業科目名	担当教員	実務経験	単位・時間数
専門 必修	実習	Java演習Ⅲ	安藤 真理	無	4単位 60時間

## 【授業の到達目標及びテーマ】

実践的かつ高度なJavaプログラミング技術を習得すること。  
また、APIドキュメントを読解するスキルを習得すること。

## 【講義概要】

例外、API、マルチスレッド、ネットワーク処理、デザインパターンなど、やや高度なプログラミング演習を行う。最低限の情報は配布するスライドに記載するが、それだけでは解けない課題も多く出題している。その場合は、各自Webや書籍を使って調査しながら演習を進めること。調査能力の向上、及びAPIドキュメントの読解力向上を意図している。

回	授業計画及び学習の内容
1	ファイル入出力と例外処理
2	Java標準APIの調査と利用
3	Java標準APIの調査と利用
4	Java標準APIのフル活用
5	Java標準APIのフル活用
6	デザインパターン入門
7	マルチスレッドプログラミング
8	マルチスレッドプログラミング
9	ソケットプログラミング
10	ソケットプログラミング
11	ソケットプログラミング
12	Webサーバの実装と性能評価
13	Webサーバの実装と性能評価
14	総合演習
15	総合演習

## 【成績評価方法】

評価項目	試験・課題	小テスト	レポート	平常点	その他（ ）	合計
割合	100%					100%

(補足)

- ・レポートや自習課題は必ず提出すること
- ・成績は100点を最高とし、60点を及第点とする。
- ・原則として欠席回数が1/3を超えた場合は、評価の対象としない。

## 【教員紹介】

大学院在学時より小学校ICT支援員とPCクラブ講師に従事。中学数学科・技術科、高校情報科の教員、専門学校にて外国人留学生に教えるなど様々な教育現場に従事した経験を持つ。

## 【教科書・参考文献】

スッキリわかるJava入門 第4版 (インプレス)、Oracle Java APIドキュメント (Web)

# 東京電子専門学校

開講課程		開講学科		開講年度		履修対象															
工業専門課程		情報処理科/システム開発コース		2025		2年 前期															
講義区分	授業形態	授業科目名		担当教員	実務経験	単位・時間数															
専門 必修	講義	Java資格対策		坂東 佑一	有	2単位 30時間															
<b>【授業の到達目標及びテーマ】</b>																					
<p>全員：Oracle社認定のJava資格試験であるJava SE Bronze (1Z0-818) への合格をストイックに目指す。            +α：開発職を希望する者や、余力のある者はJava Silverの取得も奨励する。</p>																					
<b>【講義概要】</b>																					
<p>本授業に価値が出るかは、資格の取得可否にかかっている。合格すれば著名なベンダ資格が手に入り就職や転職にも有利となる一方、合格できなければ価値の無い時間になってしまう。そのため資格取得をストイックに目指し、各人、教科書の問題演習を3周することとする。</p>																					
回	授業計画及び学習の内容																				
1	教科書の問題演習																				
2	教科書の問題演習																				
3	教科書の問題演習																				
4	教科書の問題演習																				
5	教科書の問題演習																				
6	教科書の問題演習																				
7	中間試験																				
8	教科書の問題演習																				
9	教科書の問題演習																				
10	教科書の問題演習																				
11	教科書の問題演習																				
12	教科書の問題演習																				
13	教科書の問題演習																				
14	教科書の問題演習																				
15	期末試験																				
<b>【成績評価方法】</b>																					
<table border="1"> <thead> <tr> <th>評価項目</th> <th>試験・課題</th> <th>小テスト</th> <th>レポート</th> <th>平常点</th> <th>その他（ ）</th> <th>合計</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>割合</td> <td>100%</td> <td></td> <td></td> <td></td> <td></td> <td>100%</td> </tr> </tbody> </table> <p>(補足)</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・レポートや自習課題は必ず提出すること</li> <li>・成績は100点を最高とし、60点以上を及第点とする。</li> <li>・原則として欠席回数が1/3を超えた場合は、評価の対象としない。</li> </ul>								評価項目	試験・課題	小テスト	レポート	平常点	その他（ ）	合計	割合	100%					100%
評価項目	試験・課題	小テスト	レポート	平常点	その他（ ）	合計															
割合	100%					100%															
<b>【教員紹介】</b>																					
<p>慶應義塾大学理工学部情報工学科(学士)、東京大学大学院学際情報学府(修士)            NTT研究所(2013-2015)、慶應義塾ITC(2015-2020)での勤務を経て、2020年2月～現職</p>																					
<b>【教科書・参考文献】</b>																					
<p>徹底攻略Java SE Bronze問題集 [1Z0-818] 対応 (インプレス)</p>																					

# 東京電子専門学校

開講課程		開講学科		開講年度		履修対象															
工業専門課程		情報処理科/システム開発コース		2025		2年 後期															
講義区分	授業形態	授業科目名		担当教員	実務経験	単位・時間数															
専門 必修	実習	モバイルアプリケーション開発		成田与志子	無	4単位 60時間															
<b>【授業の到達目標及びテーマ】</b>																					
Androidの文法を演習を通して学習する。																					
<b>【講義概要】</b>																					
言語はJavaを使用する。課題を完成しながら、モバイルアプリケーションの基礎知識を習得する。																					
回	授業計画及び学習の内容																				
1	Android の基本																				
2	Android の基本																				
3	レイアウトとビュー																				
4	イベントとリスナ																				
5	イベントとリスナ																				
6	リストビューとダイアログ																				
7	ConstraintLayout																				
8	画面遷移とIntentクラス																				
9	画面遷移とIntentクラス																				
10	オプションメニューとコンテキストメニュー																				
11	データベースアクセス																				
12	非同期処理とWeb API連携																				
13	メディア再生																				
14	バックグラウンド処理と通知機能																				
15	地図アプリとの連携と位置情報機能の利用																				
<b>【成績評価方法】</b>																					
<table border="1"><thead><tr><th>評価項目</th><th>試験・課題</th><th>小テスト</th><th>レポート</th><th>平常点</th><th>その他（ ）</th><th>合計</th></tr></thead><tbody><tr><td>割合</td><td>80%</td><td></td><td></td><td>20%</td><td></td><td>100%</td></tr></tbody></table>								評価項目	試験・課題	小テスト	レポート	平常点	その他（ ）	合計	割合	80%			20%		100%
評価項目	試験・課題	小テスト	レポート	平常点	その他（ ）	合計															
割合	80%			20%		100%															
(補足) ・レポートや自習課題は必ず提出すること ・成績は100点を最高とし、60点以上を及第点とする。 ・原則として欠席回数が1/3を超えた場合は、評価の対象としない。																					
<b>【教員紹介】</b>																					
情報学部の教員として、現在に至る。																					
<b>【教科書・参考文献】</b>																					
Androidアプリ開発 山田 祥寛著 翔泳社																					

# 東京電子専門学校

開講課程		開講学科		開講年度		履修対象	
工業専門課程		情報処理科/システム開発コース		2025		2年 後期	
講義区分	授業形態	授業科目名		担当教員	実務経験	単位・時間数	
専門 必修	講義	C言語文法 I		坂東 佑一	有	2単位 30時間	
<b>【授業の到達目標及びテーマ】</b>							
半年という短期間でC言語の基礎から応用までを習得する。タイトなスケジュールで、かつ難易度の高い課題もあるが、開発コースの最終学年にふさわしい能力を身に付けてもらいたい。							
<b>【講義概要】</b>							
Java習得済みの学生が対象なため、if/switch/for等の制御構文の説明は割愛する。前半は、C言語特有の文字列操作、関数、構造体、ポインタ等を中心として課題を出す。後半は、マルチスレッド、ネットワークプログラミングを重点的に行う。							
回	授業計画及び学習の内容						
1	C言語の基礎(if/for/while/配列等/文字列処理)						
2	C言語の基礎(if/for/while/配列等/文字列処理)						
3	関数						
4	メモリ領域、ポインタ						
5	ポインタ、構造体						
6	ポインタ、構造体						
7	中間試験						
8	ファイル入出力、コマンドライン引数						
9	マルチスレッドプログラミング						
10	ソケットプログラミング						
11	ソケットプログラミング						
12	Webサーバの実装						
13	Webサーバの実装						
14	Webサーバの性能評価と性能コンテスト						
15	期末試験						
<b>【成績評価方法】</b>							
	評価項目	試験・課題	小テスト	レポート	平常点	その他（ ）	合計
	割合	100%					100%
	(補足) 発表等の積極的な授業参加をした者、及び性能コンテストの上位入賞者は別途大きく加点する。						
<b>【教員紹介】</b>							
慶應義塾大学理工学部情報工学科(学士)、東京大学大学院学際情報学府(修士) NTT研究所(2013-2015)、慶應義塾ITC(2015-2020)での勤務を経て、2020年2月～現職							
<b>【教科書・参考文献】</b>							
C言語 新版 ゼロからはじめるプログラミング(翔泳社)							

# 東京電子専門学校

開講課程		開講学科		開講年度		履修対象	
工業専門課程		情報処理科/システム開発コース		2025		2年 後期	
講義区分	授業形態	授業科目名		担当教員	実務経験	単位・時間数	
専門 選択	講義	C言語文法Ⅱ		砂賀 勝己	有	2単位 30時間	
<b>【授業の到達目標及びテーマ】</b>							
C言語の復習を行う。最後の方でC++に紹介程度に触れる。							
<b>【講義概要】</b>							
C言語Ⅰで理解が進まなかった場合について、再度基礎の基礎からしっかりと学習する。							
回	授業計画及び学習の内容						
1	基本構文(for/if/while/switchなど)						
2	配列						
3	関数						
4	標準関数						
5	構造体						
6	ポインタ1						
7	中間試験						
8	ポインタ2						
9	ファイル						
10	プリプロセッサ						
11	コマンドライン						
12	メモリの動的確保						
13	C++基礎1						
14	C++基礎2						
15	期末試験						
<b>【成績評価方法】</b>							
評価項目		試験・課題	小テスト	レポート	平常点	その他（ ）	合計
割合		80%			20%		100%
(補足)		・成績は100点を最高とし、60点以上を及第点とする。 ・原則として欠席回数が1/3を超えた場合は、評価の対象としない。 ・レポートや自習課題は必ず提出すること。					
<b>【教員紹介】</b>							
教育機関にて学内のシステム・インフラ開発業務に従事 教員歴30年強. プログラム言語やネットワーク、サーバ系の授業を主に担当.							
<b>【教科書・参考文献】</b>							
-							

# 東京電子専門学校

開講課程		開講学科		開講年度		履修対象															
工業専門課程		情報処理科/システム開発コース		2025		2年 後期															
講義区分	授業形態	授業科目名		担当教員	実務経験	単位・時間数															
専門 必修	実習	C言語演習 I		坂東 佑一	有	4単位 60時間															
<b>【授業の到達目標及びテーマ】</b>																					
半年という短期間でC言語の基礎から応用までを習得する。タイトなスケジュールで、かつ難易度の高い課題もあるが、開発コースの最終学年にふさわしい能力を身に付けてもらいたい。																					
<b>【講義概要】</b>																					
Java習得済みの学生が対象なため、if/switch/for等の制御構文の説明は割愛する。前半は、C言語特有の文字列操作、関数、構造体、ポインタ等を中心として課題を出す。後半は、マルチスレッド、ネットワークプログラミングを重点的に行う。																					
回	授業計画及び学習の内容																				
1	C言語の基礎(if/for/while/配列等/文字列処理)																				
2	C言語の基礎(if/for/while/配列等/文字列処理)																				
3	関数																				
4	メモリ領域、ポインタ																				
5	ポインタ、構造体																				
6	ポインタ、構造体																				
7	総合演習																				
8	ファイル入出力、コマンドライン引数																				
9	マルチスレッドプログラミング																				
10	ソケットプログラミング																				
11	ソケットプログラミング																				
12	Webサーバの実装																				
13	Webサーバの実装																				
14	Webサーバの性能評価と性能コンテスト																				
15	総合演習																				
<b>【成績評価方法】</b>																					
<table border="1"> <thead> <tr> <th>評価項目</th> <th>試験・課題</th> <th>小テスト</th> <th>レポート</th> <th>平常点</th> <th>その他（ ）</th> <th>合計</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>割合</td> <td>100%</td> <td></td> <td></td> <td></td> <td></td> <td>100%</td> </tr> </tbody> </table>								評価項目	試験・課題	小テスト	レポート	平常点	その他（ ）	合計	割合	100%					100%
評価項目	試験・課題	小テスト	レポート	平常点	その他（ ）	合計															
割合	100%					100%															
(補足) 発表等の積極的な授業参加をした者、及び性能コンテストの上位入賞者は別途大きく加点する。																					
<b>【教員紹介】</b>																					
慶應義塾大学理工学部情報工学科(学士)、東京大学大学院学際情報学府(修士) NTT研究所(2013-2015)、慶應義塾ITC(2015-2020)での勤務を経て、2020年2月～現職																					
<b>【教科書・参考文献】</b>																					
C言語 新版 ゼロからはじめるプログラミング(翔泳社)																					

# 東京電子専門学校

開講課程		開講学科		開講年度		履修対象															
工業専門課程		情報処理科/システム開発コース		2025		2年 後期															
講義区分	授業形態	授業科目名		担当教員	実務経験	単位・時間数															
専門 選択	実習	C言語演習Ⅱ		砂賀 勝己	有	4単位 60時間															
<b>【授業の到達目標及びテーマ】</b>																					
C言語の復習を行う。最後の方でC++に紹介程度に触れる。																					
<b>【講義概要】</b>																					
C言語Ⅰで理解が進まなかった場合について、再度基礎の基礎からしっかりと学習する。 文法で学んだことを演習することで、理解力をさらに深める。																					
回	授業計画及び学習の内容																				
1	基本構文(for/if/while/switchなど)																				
2	配列																				
3	関数																				
4	標準関数																				
5	構造体																				
6	ポインタ1																				
7	総合演習1																				
8	ポインタ2																				
9	ファイル																				
10	プリプロセッサ																				
11	コマンドライン																				
12	メモリの動的確保																				
13	C++基礎1																				
14	C++基礎2																				
15	総合演習2																				
<b>【成績評価方法】</b>																					
<table border="1"><thead><tr><th>評価項目</th><th>試験・課題</th><th>小テスト</th><th>レポート</th><th>平常点</th><th>その他( )</th><th>合計</th></tr></thead><tbody><tr><td>割合</td><td>80%</td><td></td><td></td><td>20%</td><td></td><td>100%</td></tr></tbody></table>								評価項目	試験・課題	小テスト	レポート	平常点	その他( )	合計	割合	80%			20%		100%
評価項目	試験・課題	小テスト	レポート	平常点	その他( )	合計															
割合	80%			20%		100%															
(補足) ・成績は100点を最高とし、60点を及第点とする。 ・原則として欠席回数が1/3を超えた場合は、評価の対象としない。 ・レポートや自習課題は必ず提出すること。																					
<b>【教員紹介】</b>																					
教育機関にて学内のシステム・インフラ開発業務に従事 教員歴30年強。プログラム言語やネットワーク、サーバ系の授業を主に担当。																					
<b>【教科書・参考文献】</b>																					
-																					

# 東京電子専門学校

開講課程		開講学科	開講年度	履修対象	
工業専門課程		情報処理科/システム開発コース	2025	2年 前期	
講義区分	授業形態	授業科目名	担当教員	実務経験	単位・時間数
専門 必修	実習	JavaScript	榎本博文	有	3単位 60時間

## 【授業の到達目標及びテーマ】

ブラウザで稼働する唯一の言語JavaScriptの、基本的な概念とプログラミングの基礎を学びます。HTMLやCSSと連携しながら、動的なWebページを作成する方法を習得します。最終的には、簡単なWebアプリケーションを作成できることを目指します。

## 【講義概要】

JavaScriptの基本的な文法と書き方からDOM操作

回	授業計画及び学習の内容
1	JavaScriptとはどんなプログラミング言語か？ JavaScriptのできる事。開発環境の準備。 変数と定数
2	データ型と演算子、制御構造
3	関数を利用してみる。
4	数値と計算 年月日を取得する
5	文字列の操作 文字列結合：文字列と数値、ブール値、配列
6	配列の処理、配列の書き方・基本形
7	オブジェクトとMap、Set
8	基本的なクラスの定義と利用
9	クラスの継承 インスタンスを生成する
10	プロトタイプ継承の簡単な例
11	クロージャの基本的な例
12	HTMLの操作 (DOM) キー入力のイベントリスナーを設定する
13	フォームの操作 form.elementsですべてのフォーム部品を取得する
14	非同期処理 JSONデータをPOSTで送信
15	非同期処理 複数の非同期処理を並行処理する

## 【成績評価方法】

評価項目	試験・課題	小テスト	レポート	平常点	その他 ( )	合計
割合	60%	20%		20%		100%

(補足)

- ・レポートや自習課題は必ず提出すること
- ・成績は100点を最高とし、60点以上を及第点とする。
- ・原則として欠席回数が1/3を超えた場合は、評価の対象としない。

## 【教員紹介】

ウェブ制作会社・代理店などでウェブデザイナー、プロジェクトマネージャーなど業務に従事。

## 【教科書・参考文献】

これからのJavaScriptの教科書  
上記に加え別途補足資料を作成し配布

# 東京電子専門学校

開講課程		開講学科		開講年度		履修対象															
工業専門課程		情報処理科/システム開発コース		2025		2年 前期															
講義区分	授業形態	授業科目名		担当教員	実務経験	単位・時間数															
専門 必修	実習	Python		吉田雅裕	有	4単位 60時間															
<b>【授業の到達目標及びテーマ】</b>																					
本講義では、プログラミング言語『Python』の基本文法とその応用技術について学びます。最終的に、Pythonを用いて簡単なアプリ開発をすることができる水準のプログラミング能力を習得することが目標です。																					
<b>【講義概要】</b>																					
Pythonの変数、条件分岐、関数、モジュール、クラスなどの基本概念を演習形式で学びます。また、高度なプログラミング能力を習得するために必要なアルゴリズムの考え方や、アプリ開発の技法についても学習を行います。																					
回	授業計画及び学習の内容																				
1	Python基礎（環境構築、変数）																				
2	Python基礎（条件分岐）																				
3	Python基礎（繰り返し）																				
4	Python基礎（関数）																				
5	Python基礎（モジュール）																				
6	Python基礎（クラスとオブジェクト）																				
7	Python応用（アルゴリズム）																				
8	Python応用（計算量オーダー）																				
9	Python応用（Webシステム①）																				
10	Python応用（Webシステム②）																				
11	Python応用（Webシステム③）																				
12	Python応用（スクレイピング）																				
13	Python応用（AIシステム①）																				
14	Python応用（AIシステム②）																				
15	Python応用（AIシステム③）																				
<b>【成績評価方法】</b>																					
<table border="1"><thead><tr><th>評価項目</th><th>試験・課題</th><th>小テスト</th><th>レポート</th><th>平常点</th><th>その他（ ）</th><th>合計</th></tr></thead><tbody><tr><td>割合</td><td>30%</td><td></td><td>50%</td><td>20%</td><td></td><td>100%</td></tr></tbody></table>								評価項目	試験・課題	小テスト	レポート	平常点	その他（ ）	合計	割合	30%		50%	20%		100%
評価項目	試験・課題	小テスト	レポート	平常点	その他（ ）	合計															
割合	30%		50%	20%		100%															
(補足) ・成績は100点を最高とし、60点を及第点とする。 ・原則として欠席回数が1/3を超えた場合は、評価の対象としない。 ・レポートや自習課題は必ず提出すること。																					
<b>【教員紹介】</b>																					
1985年生まれ。山口県出身。東京大学大学院博士課程修了。博士(学際情報学)。日本学術振興会特別研究員を経て、2013年に日本電信電話株式会社に入社。5Gと自動運転に関する研究開発を経て、現在、中央大学国際情報学部准教授。コンピュータネットワークとAIに関する研究教育活動に従事。																					
<b>【教科書・参考文献】</b>																					
特になし																					

# 東京電子専門学校

開講課程		開講学科	開講年度		履修対象
工業専門課程		情報処理科/システム開発コース	2025		2年 前期
講義区分	授業形態	授業科目名	担当教員	実務経験	単位・時間数
専門 必修	講義	データサイエンス	吉田雅裕	有	2単位 30時間

## 【授業の到達目標及びテーマ】

Excelを用いたデータクレンジングの方法、データの正しい読み方、統計的手法を用いたデータ分析をできるようになる。実際のビッグデータに対して、データサイエンスの各種手法を適用できるようになる。

## 【講義概要】

ビッグデータの利活用が必須化している現代において、実際に大量のデータに接し、それを加工・分析・可視化するスキルが極めて重要となる。本講義では、Microsoft社の表計算ソフト『Excel』を用いて、演習を中心とした授業内容により、データサイエンスの基礎技術を習得する。

回	授業計画及び学習の内容
1	イントロダクション
2	データサイエンスのプロセス
3	データ収集①（公開データ）
4	データ収集②（アンケート調査）
5	データクレンジング
6	データ集計
7	データ可視化
8	統計学基礎
9	統計的推定
10	統計的検定
11	連関分析
12	相関分析
13	データサイエンス演習①
14	データサイエンス演習②
15	データサイエンス演習③

## 【成績評価方法】

評価項目	試験・課題	小テスト	レポート	平常点	その他（ ）	合計
割合			100%			100%

(補足) ・成績は100点を最高とし、60点以上を及第点とする。  
・原則として欠席回数が1/3を超えた場合は、評価の対象としない。  
・レポートや自習課題は必ず提出すること。

## 【教員紹介】

1985年生まれ。山口県出身。東京大学大学院博士課程修了。博士(学際情報学)。日本学術振興会特別研究員を経て、2013年に日本電信電話株式会社に入社。5Gと自動運転に関する研究開発を経て、現在、中央大学国際情報学部准教授。コンピュータネットワークとAIに関する研究教育活動に従事。

## 【教科書・参考文献】

参考文献：吉田雅裕，『Pythonで学ぶはじめてのデータサイエンス』，技術評論社，2023

# 東京電子専門学校

開講課程		開講学科	開講年度	履修対象	
工業専門課程		情報処理科/システム開発コース	2025	2年 後期	
講義区分	授業形態	授業科目名	担当教員	実務経験	単位・時間数
専門 必修	講義	AI基礎	吉田雅裕	有	4単位 60時間

## 【授業の到達目標及びテーマ】

情報社会が抱える諸問題を多角的に分析・解明した上で、その問題の解決策を論理的に構築するために有用なデータマイニングの基礎技術の習得を目指す。実社会のビッグデータを対象に、データクレンジングの方法やAIの適用方法を学習し、データマイニングによって得られる結果を正しく理解するための論理的思考力を身に着ける。例として、身近な医療や保健のデータ、電子メールのデータ、スーパーマーケットの商品販売履歴などのデータを学習に利用する。日ごろ直感的に感じていることと、データマイニングでわかることを比較し、データマイニングに関するより深い理解を得る。

Pythonを使って、実際にデータマイニングを行うための具体的な方法論を習得する。Pythonを使って実際のビッグデータに対して基礎的な分析ができるようになる。データ分析結果の正しさを判断し、データサイエンスで論理的な主張を行えるようになる。

## 【講義概要】

膨大な非構造化データ、いわゆるビッグデータから、何らかの知見を導き出すデータマイニングについて学修する。連関規則、決定木、クラスタ分析、回帰分析、自己組織化マップ、ニューラルネットなどについて学び、ツールを用いることによっていわゆるAI（弱いAI）を活用することができる水準の技術を獲得する。機械学習についても、教師あり学習、教師なし学習、強化学習の特徴を把握し、自らが行う問題解決に際して、適切な方法を選択できる力量を養う。本講義では、プログラミング言語『Python』を用いたデータマイニングを行う。演習を中心とした授業内容により、データマイニングとAIの基礎技術を学習する。

回	授業計画及び学習の内容
1	イントロダクション
2	Pythonプログラミング
3	データ収集
4	データ前処理
5	確率統計
6	統計的検定
7	A/Bテスト
8	アルゴリズム
9	3/7
10	分類
11	クラスタリング
12	レコメンド
13	時系列分析、自然言語処理
14	画像分析
15	データ分析コンペ

## 【成績評価方法】

評価項目	試験・課題	小テスト	レポート	平常点	その他（ ）	合計
割合			100%			100%

(補足)

- ・成績は100点を最高とし、60点を及第点とする。
- ・原則として欠席回数が1/3を超えた場合は、評価の対象としない。
- ・レポートや自習課題は必ず提出すること。

## 【教員紹介】

1985年生まれ。山口県出身。東京大学大学院博士課程修了。博士(学際情報学)。日本学術振興会特別研究員を経て、2013年に日本電信電話株式会社に入社。5Gと自動運転に関する研究開発を経て、現在、中央大学国際情報学部准教授。コンピュータネットワークとAIに関する研究教育活動に従事。

## 【教科書・参考文献】

吉田雅裕, 『Pythonで学ぶはじめてのデータサイエンス』, 技術評論社, 2023

# 東京電子専門学校

開講課程		開講学科		開講年度		履修対象															
工業専門課程		情報処理科/システム開発コース		2025		2年 前期															
講義区分	授業形態	授業科目名		担当教員	実務経験	単位・時間数															
専門 必修	実習	データベース演習(SQL) I		龔 恵美子	有	4単位 60時間															
<b>【授業の到達目標及びテーマ】</b>																					
SQLの演習を通して、DDLを用いたDB・TABLE作成、およびDMLによる基本的なデータ操作を身につけることを目標とする。																					
<b>【講義概要】</b>																					
教科書、プロジェクタ、プリントを用いてSQLの基本文法を解説した後、XAMPPを使用した演習環境を用いてSQLの実行確認を行う。																					
回	授業計画及び学習の内容																				
1	データベースとは、演習用データベース環境の構築																				
2	4大命令の成り立ちと覚えるコツ (SELECT文、INSERT文、UPDATE文、DELETE文)																				
3	操作対象の絞り込み (WHERE句、条件式、比較演算子、主キー)																				
4	検索結果の加工 (DISTINCT句、ORDER BY句)																				
5	文字列にまつわる関数 (LENGTH関数、TRIM関数、REPLACE関数、SUBSTRING関数、CONCAT関数)																				
6	集計関数とグループ化 (GROUP BY句、MAX関数、MIN関数、SUM関数、AVG関数、COUNT関数)																				
7	副問い合わせ I (単一行副問い合わせ)																				
8	副問い合わせ I (複数行副問い合わせ)																				
9	副問い合わせ II (表副問い合わせ)																				
10	複数テーブルの結合 内部結合 (JOIN句)																				
11	複数テーブルの結合 外部結合 (LEFT JOIN句、RIGHT JOIN句、FULL JOIN句)																				
12	テーブル作成 データ型と制約 I (数値型、文字列型、日時型)																				
13	テーブル作成 データ型と制約 II (主キー制約、外部キー制約、NOT NULL制約、UNIQUE制約、CHECK制約)																				
14	SQL強化演習																				
15	総まとめ																				
<b>【成績評価方法】</b>																					
<table border="1"><thead><tr><th>評価項目</th><th>試験・課題</th><th>小テスト</th><th>レポート</th><th>平常点</th><th>その他 ( )</th><th>合計</th></tr></thead><tbody><tr><td>割合</td><td>70%</td><td></td><td></td><td>30%</td><td></td><td>100%</td></tr></tbody></table> <p>(補足) 授業内で実施する演習を平常点として成績評価に加える</p>								評価項目	試験・課題	小テスト	レポート	平常点	その他 ( )	合計	割合	70%			30%		100%
評価項目	試験・課題	小テスト	レポート	平常点	その他 ( )	合計															
割合	70%			30%		100%															
<b>【教員紹介】</b>																					
前職にてシステム開発業務に約20年従事し、DBの構築やSQLを用いたデータ管理業務にも長く携わる。OracleSilverFellow保持。																					
<b>【教科書・参考文献】</b>																					
スッキリわかるSQL入門(株式会社インプレス)																					

# 東京電子専門学校

開講課程		開講学科		開講年度		履修対象	
工業専門課程		情報処理科/システム開発コース		2025		2年 後期	
講義区分	授業形態	授業科目名		担当教員	実務経験	単位・時間数	
専門	必修	実習	Oracle DBA		坂井 剛	有	4単位 60時間
<b>【授業の到達目標及びテーマ】</b>							
Oracleデータベースシステムの構成技術の修得、及び実際にシステム構築を通して実体験を行う。 バンダー資格「ORACLE MASTER Bronze DBA 2019」取得を目的とする。							
<b>【講義概要】</b>							
教科書を利用した学習と実演習を通し、Oracle Master Bronze取得に必要な総合知識を修得する。 その他、Oracle Master Silverの一部領域、試験範囲外だが重要な項目に関しても本講義で取り入れる。 「ORACLE MASTER Bronze DBA 2019」以上の資格取得により本講義は免除となる。							
回	授業計画及び学習の内容						
1	Oracleデータベース管理の概要						
2	Oracleソフトウェアのインストールとデータベースの作成						
3	Oracle Enterprise Manager Database ExpressおよびSQL管理ツールの使用						
4	Oracle Network環境の構成						
5	Oracleインスタンスの管理						
6	データベース記憶域構造の管理						
7	初期化パラメータと制御ファイルの管理						
8	中間試験						
9	ユーザーおよび権限管理						
10	スキーマオブジェクト（ビュー、索引、順序、別名）						
11	データベースの監視およびアドバイザの使用						
12	データベースのバックアップとリカバリ						
13	マルチテナントデータベース						
14	総合復習演習						
15	期末試験						
<b>【成績評価方法】</b>							
	評価項目	試験・課題	小テスト	レポート	平常点	その他（ ）	合計
	割合	70%			30%		100%
	(補足)	<ul style="list-style-type: none"> <li>レポートや自習課題は必ず提出すること</li> <li>成績は100点を最高とし、60点を及第点とする。</li> <li>原則として欠席回数が1/3を超えた場合は、評価の対象としない。</li> </ul>					
<b>【教員紹介】</b>							
大学院出身後、8年間企業においてSEとして業務に携わる。 その後2010年より教員として勤務。 Oracle Master 10g~12c Silver (10g Goldは筆記のみ取得) 所有。							
<b>【教科書・参考文献】</b>							
『オラクルマスター教科書 Bronze DBA Oracle Database Fundamentals』(翔泳社、ISBN-9784798166360) 『オラクルマスター教科書 Silver DBA Oracle Database Administration I』(翔泳社、ISBN-9784798166353)							

# 東京電子専門学校

開講課程		開講学科		開講年度		履修対象	
工業専門課程		情報処理科/システム開発コース		2025		2年 前期	
講義区分	授業形態	授業科目名		担当教員	実務経験	単位・時間数	
専門	選択	CCNA II		平塚 悠生	無	4単位 60時間	
<b>【授業の到達目標及びテーマ】</b>							
コンピュータネットワークが繋がる理由、仕組みと基本的なネットワーク機器の設定を習得する。							
<b>【講義概要】</b>							
ネットワークが繋がる仕組みを踏まえて、シミュレーションソフトを利用してネットワークの構築演習を行う。							
回	授業計画及び学習の内容						
1	データ分割とカプセル化, トランスポート層について						
2	スイッチとハブの動作の違い, MACアドレスについて						
3	MACアドレステーブル作成方法, スwitchの基本設定演習						
4	ポートセキュリティ概要, 設定演習						
5	ACL概要と設定演習						
6	ここまでの復習						
7	中間試験						
8	ACL設定演習, NAT概要						
9	NAT設定演習						
10	ルータに名前を付ける, バナーメッセージを設定する, 設定の削除						
11	ルーティングテーブルの閲覧						
12	ルータのIFに設定を施す, 疎通確認						
13	ルータに施された設定の確認						
14	ここまでの復習						
15	期末試験						
<b>【成績評価方法】</b>							
	評価項目	試験・課題	小テスト	レポート	平常点	その他 ( )	合計
	割合	50%			50%		100%
	(補足)	<ul style="list-style-type: none"> <li>・成績は100点を最高とし、60点以上を及第点とする。</li> <li>・原則として欠席回数が1/3を超えた場合は、評価の対象としない。</li> <li>・レポートや自習課題は必ず提出すること。</li> </ul>					
<b>【教員紹介】</b>							
前職にてCCNAおよびLPICレベル1取得研修業務に約6年従事。教員に類する職務経験は17年程度。							
<b>【教科書・参考文献】</b>							
-							

# 東京電子専門学校

開講課程		開講学科		開講年度		履修対象	
工業専門課程		情報処理科/システム開発コース		2025		2年 後期	
講義区分	授業形態	授業科目名		担当教員	実務経験	単位・時間数	
専門	選択	CCNAⅢ		平塚 悠生	無	2単位 30時間	
<b>【授業の到達目標及びテーマ】</b>							
コンピュータネットワークが繋がる理由、仕組みと基本的なネットワーク機器の設定を習得する。							
<b>【講義概要】</b>							
ネットワークが繋がる仕組みを踏まえて、シミュレーションソフトを利用してネットワークの構築演習を行う。							
回	授業計画及び学習の内容						
1	エンドデバイスに必要な設定を施す						
2	デバイスの接続演習						
3	仮想端末接続のための設定						
4	スタティックルートの設定						
5	ダイナミックルートRIPの設定						
6	ここまでの復習						
7	中間試験						
8	スイッチがたくさん存在するトポロジの作成						
9	スパニングツリープロトコル発動トポロジの作成と状態の確認						
10	VLANとは						
11	アクセスポートとトランク接続とは						
12	VLAN間接続のやり方について						
13	VLAN導入によるセキュリティ向上について						
14	ここまでの復習						
15	期末試験						
<b>【成績評価方法】</b>							
	評価項目	試験・課題	小テスト	レポート	平常点	その他（ ）	合計
	割合	50%			50%		100%
	(補足)	<ul style="list-style-type: none"> <li>・成績は100点を最高とし、60点以上を及第点とする。</li> <li>・原則として欠席回数が1/3を超えた場合は、評価の対象としない。</li> <li>・レポートや自習課題は必ず提出すること。</li> </ul>					
<b>【教員紹介】</b>							
前職にてCCNAおよびLPICレベル1取得研修業務に約6年従事。教員に類する職務経験は17年程度。							
<b>【教科書・参考文献】</b>							
-							

# 東京電子専門学校

開講課程		開講学科		開講年度		履修対象															
工業専門課程		情報処理科/システム開発コース		2025		2年 前期															
講義区分	授業形態	授業科目名		担当教員	実務経験	単位・時間数															
専門 選択	実習	サーバ構築		砂賀 勝己	無	2単位 30時間															
<b>【授業の到達目標及びテーマ】</b>																					
社会ではとても多くのWindowsマシンが使われており、それをセキュアな状態に保つ、管理を行うためのスキルはとても重要である。本講座ではそのための基礎知識となるWindowsクライアント/サーバのセキュリティ設定に関する手法を取得することを目的とする。																					
<b>【講義概要】</b>																					
Windowサーバ/クライアント環境におけるセキュアなシステム構築の手法について学習する																					
回	授業計画及び学習の内容																				
1	Windowsドメイン、ワークグループ、Active Directory																				
2	ユーザとグループ-概要、ローカルとドメインでの違いなど																				
3	ドメインでのグループと組織単位の管理																				
4	NTFSアクセス権																				
5	共有アクセス権																				
6	共有フォルダの管理																				
7	グループポリシー1																				
8	グループポリシー2																				
9	グループポリシー3																				
10	EFS(暗号化ファイルシステム)、リモートでの管理																				
11	イベントログ、監査1																				
12	監査2																				
13	監査3																				
14	実技試験1																				
15	実技試験2																				
<b>【成績評価方法】</b>																					
<table border="1"><thead><tr><th>評価項目</th><th>試験・課題</th><th>小テスト</th><th>レポート</th><th>平常点</th><th>その他( )</th><th>合計</th></tr></thead><tbody><tr><td>割合</td><td>80%</td><td></td><td></td><td>20%</td><td></td><td>100%</td></tr></tbody></table>								評価項目	試験・課題	小テスト	レポート	平常点	その他( )	合計	割合	80%			20%		100%
評価項目	試験・課題	小テスト	レポート	平常点	その他( )	合計															
割合	80%			20%		100%															
(補足) ・成績は100点を最高とし、60点以上を及第点とする。 ・原則として欠席回数が1/3を超えた場合は、評価の対象としない。 ・レポートや自習課題は必ず提出すること。																					
<b>【教員紹介】</b>																					
教育機関にて学内のシステム・インフラ開発業務に従事 教員歴30年強. プログラム言語やネットワーク、サーバ系の授業を主に担当.																					
<b>【教科書・参考文献】</b>																					
-																					

# 東京電子専門学校

開講課程		開講学科		開講年度		履修対象	
工業専門課程		情報処理科/システム開発コース		2025		2年 後期	
講義区分	授業形態	授業科目名		担当教員	実務経験	単位・時間数	
専門	必修	市場調査/要件定義		小泉 真理子	有	2単位 30時間	
<b>【授業の到達目標及びテーマ】</b>							
現実に起こりうる「要件定義を元に、その要件に合うシステムの設計、機器構成、提案を行う」ための手法について学習する。よりよい提案資料の作成方法についても考察を行う。							
<b>【講義概要】</b>							
原則としてグループで作業をする。 評価は出席、レポート、各回の発表、公開資料、他者の講評にて行う。							
回	授業計画及び学習の内容						
1	ソリューションとは						
2	グループワーク						
3	グループワーク						
4	グループワーク						
5	発表						
6	グループワーク						
7	グループワーク						
8	グループワーク						
9	発表						
10	グループワーク						
11	グループワーク						
12	グループワーク						
13	発表						
14	まとめ1						
15	まとめ2						
<b>【成績評価方法】</b>							
評価項目	試験・課題	小テスト	レポート	平常点	その他（ ）	合計	
割合	100%					100%	
(補足)	<ul style="list-style-type: none"> <li>・レポートや自習課題は必ず提出すること</li> <li>・成績は100点を最高とし、60点以上を及第点とする。</li> <li>・原則として欠席回数が1/3を超えた場合は、評価の対象としない。</li> </ul>						
<b>【教員紹介】</b>							
SIベンダにてソリューション提案・設計に従事。保有資格：ITパスポート試験、基本情報技術者試験、情報セキュリティマネジメント試験、応用情報技術者試験、情報処理安全確保支援士、ネットワークスペシャリスト試験、プロジェクトマネージャ試験など。							
<b>【教科書・参考文献】</b>							

# 東京電子専門学校

開講課程		開講学科		開講年度		履修対象	
工業専門課程		情報処理科/システム開発コース		2025		2年 前期	
講義区分	授業形態	授業科目名		担当教員	実務経験	単位・時間数	
専門 必修	講義	UML I		潮 達也	有	2単位 30時間	
<b>【授業の到達目標及びテーマ】</b>							
到達目標はシステム開発の実践の場で要件定義、基本設計、詳細設計、プログラム設計等でUMLでドキュメントを作成出来るようになることで、環境としてはUML統合環境ツールの使用を一人称で活用出来るところを目指します							
<b>【講義概要】</b>							
UML統合環境を使用しそれぞれのダイアグラムを各表記法にてどう描くかを想像できるよう実践的な捉え方を習得する							
回	授業計画及び学習の内容						
1	UMLとは オブジェクト指向 歴史的背景 標準化 Astah professionalツールの使用法とダイアグラムの種類の説明						
2	ユースケース図 特徴(振る舞い図) 表記ルール アクターとユースケース オブジェクト間の関係						
3	ユースケース図 関連 包含 拡張 汎化 演習問題(基本問題 問題の捉え方 掴み方)						
4	ユースケース図 演習問題(応用問題 実践問題 解放の手引き)						
5	オブジェクト図 特徴(構造図) 表記ルール オブジェクトアイコン 属性 関係 インスタンスとクラス						
6	オブジェクト図 演習問題(基本問題 応用問題 解放の手引き)						
7	中間試験						
8	クラス図 特徴 表記ルール 属性 操作 可視性 多重度 ロール クラス間の関係について						
9	クラス図 関係には(関連 限定子 複数関連 集約 依存 汎化)						
10	クラス図 関係には(コンポジション 実現 抽象クラス 関連クラス)						
11	クラス図 演習問題(基本問題からクラスアイコン クラス間の関係の表記 ロールと多重度の表記)						
12	クラス図 演習問題(応用問題 実践問題 UML/L1レベル相当の問題)						
13	シーケンス図 特徴 表記ルール 同期メッセージ 非同期メッセージ リプライメッセージ						
14	シーケンス図 ロストメッセージ ファウンドメッセージ 実行指定						
15	期末試験						
<b>【成績評価方法】</b>							
評価項目	試験・課題	小テスト	レポート	平常点	その他 ( )	合計	
割合	75%	10%		15%		100%	
(補足)	<ul style="list-style-type: none"> <li>・成績は100点を最高とし、60点以上を及第点とする。</li> <li>・原則として欠席回数が1/3を超えた場合は、評価の対象としない。</li> <li>・レポートや自習課題は必ず提出すること。</li> </ul>						
<b>【教員紹介】</b>							
<ul style="list-style-type: none"> <li>・IT企業にて開発プロジェクトに従事 (SE)</li> <li>・富士通のシステムソリューション部門でC言語の講義実習(2回)</li> <li>・富士通ユーザーの情報システム部にてC言語・SQLの講義実習(1週間)</li> </ul>							
<b>【教科書・参考文献】</b>							
技術評論社 かんたんUML入門 [改訂2版] ナツメ社 はじめて学ぶUML 第2版							

東京電子専門学校 情報処理科/システム開発コース

# 東京電子専門学校

開講課程		開講学科		開講年度		履修対象	
工業専門課程		情報処理科/システム開発コース		2025		2年 後期	
講義区分	授業形態	授業科目名		担当教員	実務経験	単位・時間数	
専門	必修	UML II		潮 達也	有	2単位 30時間	
<b>【授業の到達目標及びテーマ】</b>							
到達目標はシステム開発の実践の場で要件定義、基本設計、詳細設計、プログラム設計等でUMLでドキュメントを作成出来るようになることで、環境としてはUML統合環境ツールの使用を一人称で活用出来るところを目指します							
<b>【講義概要】</b>							
前年2年生後期からの継続実習でUML統合環境を活用したダイアグラム表記が各表記法で描けかつ実践的な表記を習得する							
回	授業計画及び学習の内容						
1	シーケンス図 制御構造化表現の表記法 パラレル クリティカル break ref assert seq ignore strict						
2	シーケンス図 演習問題(基本問題 応用問題 演習の解法・解説) 演習の解法・解説						
3	コミュニケーション図 ライフライン及び基本表記法 メッセージの種類・表記法 オブジェクトの関連						
4	コミュニケーション図 演習問題(基本問題 応用問題 演習の解法・解説)						
5	ステートマシン図 基本的表記法 状態遷移の表記法 状態の階層化 疑似状態 状態再利用 拡張の表記						
6	ステートマシン図 状態遷移とトリガ 状態の階層化 直交状態 各々疑似状態 履歴疑似 選択疑似						
7	中間試験						
8	ステートマシン図 フォークとジョイン疑似 ジャンクション疑似 停止疑似 合成状態						
9	ステートマシン図 演習問題(基本問題 応用問題 演習の解法・解説)						
10	アクティビティ図 基本的表記法 アクションとノード 各々のノード 各々のアクション 表記上の注意点						
11	アクティビティ図 パーティション 呼出し振舞アクション 入出力ピン パラメータアクティビティノード						
12	アクティビティ図 演習問題(基本問題 応用問題 演習の解法・解説)						
13	パッケージ図 基本的表記法 パッケージ図の描き方 階層構造 依存関係 表記上の注意点						
14	パッケージ図 内部要素の切り出し 演習問題(基本問題 応用問題 演習の解法・解説)						
15	期末試験						
<b>【成績評価方法】</b>							
	評価項目	試験・課題	小テスト	レポート	平常点	その他( )	合計
	割合	75%	10%		15%		100%
	(補足)	<ul style="list-style-type: none"> <li>・成績は100点を最高とし、60点以上を及第点とする。</li> <li>・原則として欠席回数が1/3を超えた場合は、評価の対象としない。</li> <li>・レポートや自習課題は必ず提出すること。</li> </ul>					
<b>【教員紹介】</b>							
<ul style="list-style-type: none"> <li>・IT企業にて開発プロジェクトに従事(SE)</li> <li>・富士通のシステムソリューション部門でC言語の講義実習(2回)</li> <li>・富士通ユーザーの情報システム部にてC言語・SQLの講義実習(1週間)</li> </ul>							
<b>【教科書・参考文献】</b>							
技術評論社 かんたんUML入門 [改訂2版] ナツメ社 はじめて学ぶUML 第2版							

# 東京電子専門学校

開講課程		開講学科		開講年度		履修対象															
工業専門課程		情報処理科/システム開発コース		2025		2年 前期															
講義区分	授業形態	授業科目名		担当教員	実務経験	単位・時間数															
専門 必修	実習	Linux I		鈴木 俊	有	4単位 60時間															
<b>【授業の到達目標及びテーマ】</b>																					
Linuxの利用に必要な基礎知識と基本操作方法（ファイル操作からシステム管理まで）を習得することを目標とする。																					
<b>【講義概要】</b>																					
各回、テーマに沿った演習（実機コマンド操作）を実施する。講義内での演習の作業証跡（ログや画面キャプチャ）を提出課題（平常点）とする。また、復習としてのレポート・自習課題も提出とする。																					
回	授業計画及び学習の内容																				
1	Linuxのインストール																				
2	Linuxのコマンドライン操作の基本（ファイル操作）①																				
3	Linuxのコマンドライン操作の基本（ファイル操作）②																				
4	シェルのメタキャラクタ																				
5	標準入出力とリダイレクト																				
6	viエディタ																				
7	中間試験																				
8	パイプラインと grep コマンド																				
9	ユーザーとグループの管理																				
10	所有者管理とアクセス権																				
11	パッケージ管理																				
12	デバイスとファイルシステム																				
13	シェルスクリプト																				
14	バックアップとジョブスケジューリング																				
15	期末試験																				
<b>【成績評価方法】</b>																					
<table border="1"><thead><tr><th>評価項目</th><th>試験</th><th>小テスト</th><th>レポート 自習課題</th><th>平常点 (演習提出)</th><th>その他 ( )</th><th>合計</th></tr></thead><tbody><tr><td>割合</td><td>40%</td><td></td><td>10%</td><td>50%</td><td></td><td>100%</td></tr></tbody></table>								評価項目	試験	小テスト	レポート 自習課題	平常点 (演習提出)	その他 ( )	合計	割合	40%		10%	50%		100%
評価項目	試験	小テスト	レポート 自習課題	平常点 (演習提出)	その他 ( )	合計															
割合	40%		10%	50%		100%															
(補足) ・成績は100点を最高とし、60点を及第点とする。 ・原則として欠席回数が1/3を超えた場合は、評価の対象としない。 ・レポートや自習課題は必ず提出すること。																					
<b>【教員紹介】</b>																					
金融、通信キャリアの構築・運用業務に、インフラ（NW、サーバー）エンジニアとして従事 携帯電話会社のメールシステム構築業務、金融会社のシステム設計・構築業務、等																					
<b>【教科書・参考文献】</b>																					
オリジナル教材ーLinux I（ベーシック）																					

# 東京電子専門学校

開講課程		開講学科		開講年度		履修対象															
工業専門課程		情報処理科/システム開発コース		2025		2年 後期															
講義区分	授業形態	授業科目名		担当教員	実務経験	単位・時間数															
専門 必修	実習	LinuxⅡ		鈴木 俊	有	4単位 60時間															
<b>【授業の到達目標及びテーマ】</b>																					
WebサーバーやDNSサーバーをはじめとする各種Linuxサーバーの構築技術の基本の習得、また、サーバー公開時におけるセキュリティ知識の基本の習得を目標とする。																					
<b>【講義概要】</b>																					
各回、テーマに沿った演習（実機コマンド操作）を実施する。講義内での演習の作業証跡（ログや画面キャプチャ）を提出課題（平常点）とする。また、復習としてのレポート・自習課題も提出とする。																					
回	授業計画及び学習の内容																				
1	Linuxのインストール																				
2	パッケージ管理																				
3	Webサーバーの構築（Apache Webページの公開設定）																				
4	Webサーバーの構築（Apache 設定変更）																				
5	Webサーバーの構築（Apache ユーザー認証、SSLの利用）																				
6	Webサーバーの構築（Apache PHPとMariaDBの連携）																				
7	中間試験																				
8	SSHの公開鍵・秘密鍵認証、ファイアウォールの設定																				
9	DNSサーバー（BIND）の構築（DNS権威サーバー）																				
10	DNSサーバー（BIND）の構築（DNSキャッシュサーバー）																				
11	メールサーバーの構築（Postfixの利用）																				
12	メールサーバーの構築（Dovecotの利用）																				
13	メールサーバーの構築（SSLの利用）																				
14	総合演習																				
15	期末試験																				
<b>【成績評価方法】</b>																					
<table border="1"><thead><tr><th>評価項目</th><th>試験</th><th>小テスト</th><th>レポート 自習課題</th><th>平常点 (演習提出)</th><th>その他（ ）</th><th>合計</th></tr></thead><tbody><tr><td>割合</td><td>40%</td><td></td><td>10%</td><td>50%</td><td></td><td>100%</td></tr></tbody></table>								評価項目	試験	小テスト	レポート 自習課題	平常点 (演習提出)	その他（ ）	合計	割合	40%		10%	50%		100%
評価項目	試験	小テスト	レポート 自習課題	平常点 (演習提出)	その他（ ）	合計															
割合	40%		10%	50%		100%															
(補足) ・成績は100点を最高とし、60点を及第点とする。 ・原則として欠席回数が1/3を超えた場合は、評価の対象としない。 ・レポートや自習課題は必ず提出すること。																					
<b>【教員紹介】</b>																					
金融、通信キャリアの構築・運用業務に、インフラ（NW、サーバー）エンジニアとして従事 携帯電話会社のメールシステム構築業務、金融会社のシステム設計・構築業務、等																					
<b>【教科書・参考文献】</b>																					
オリジナルテキストーLinuxⅡ（サーバー&セキュリティ）																					

# 東京電子専門学校

開講課程		開講学科		開講年度		履修対象															
工業専門課程		情報処理科/システム開発コース		2025		2年 後期															
講義区分	授業形態	授業科目名		担当教員	実務経験	単位・時間数															
専門 必修	実習	卒業制作 I		安藤 真理	無	4単位 60時間															
<b>【授業の到達目標及びテーマ】</b>																					
学習の総決算として数千行規模以上のシステムを作成する。作業は1~3人で行い、プロジェクト管理についても経験する。また、学術発表の仕方を学ぶとともに、最終的には論文を執筆し提出してもらう。																					
<b>【講義概要】</b>																					
指導教員は、システムの全体設計に関わる相談、発表指導、論文指導のみを行う。細かい実装やデバッグ等に関する助言はしないため、独力あるいはチームで乗り越えられる力を養うこと。評価は、発表の出来を最も重視する。																					
回	授業計画及び学習の内容																				
1	チーム決め、リーダー等の役割決め、テーマ検討																				
2	テーマ検討、発表準備（プレゼンテーション用スライドの作成、チーム内発表練習）																				
3	第1回 中間発表（テーマ発表）																				
4	中間発表の批評を受けてテーマの再検討、制作作業																				
5	制作作業																				
6	制作作業																				
7	発表準備																				
8	第2回 中間発表（制作システムの何らかの画面や機能を最低限1つは見せること）																				
9	制作作業																				
10	制作作業・卒業論文執筆																				
11	制作作業・卒業論文執筆																				
12	制作作業・卒業論文執筆																				
13	第3回 卒業制作発表リハーサル（制作システムのデモを必ず含めること）																				
14	最終発表調整																				
15	第4回 卒業制作発表																				
<b>【成績評価方法】</b>																					
<table border="1"><thead><tr><th>評価項目</th><th>試験・課題</th><th>小テスト</th><th>レポート</th><th>平常点</th><th>その他（発表）</th><th>合計</th></tr></thead><tbody><tr><td>割合</td><td></td><td></td><td>30%</td><td></td><td>70%</td><td>100%</td></tr></tbody></table>								評価項目	試験・課題	小テスト	レポート	平常点	その他（発表）	合計	割合			30%		70%	100%
評価項目	試験・課題	小テスト	レポート	平常点	その他（発表）	合計															
割合			30%		70%	100%															
(補足) <ul style="list-style-type: none"><li>・レポートや自習課題は必ず提出すること</li><li>・成績は100点を最高とし、60点以上を及第点とする。</li><li>・原則として欠席回数が1/3を超えた場合は、評価の対象としない。</li></ul>																					
<b>【教員紹介】</b>																					
大学院在学時より小学校ICT支援員とPCクラブ講師に従事。中学数学科・技術科、高校情報科の教員、専門学校にて外国人留学生に教えるなど様々な教育現場に従事した経験を持つ。																					
<b>【教科書・参考文献】</b>																					
なし																					

# 東京電子専門学校

開講課程		開講学科	開講年度		履修対象
工業専門課程		情報処理科/システム開発コース	2025		2年 後期
講義区分	授業形態	授業科目名	担当教員	実務経験	単位・時間数
専門 選択	実習	卒業制作Ⅱ	安藤 真理	無	2単位 30時間

## 【授業の到達目標及びテーマ】

学習の総決算として数千行規模以上のシステムを作成する。作業は1~3人で行い、プロジェクト管理についても経験する。また、学術発表の仕方を学ぶとともに、最終的には論文を執筆し提出してもらう。

## 【講義概要】

指導教員は、システムの全体設計に関わる相談、発表指導、論文指導のみを行う。細かい実装やデバッグ等に関する助言はしないため、独力あるいはチームで乗り越えられる力を養うこと。評価は、発表の出来を最も重視する。

回	授業計画及び学習の内容
1	チーム決め、リーダー等の役割決め、テーマ検討
2	テーマ検討、発表準備（プレゼンテーション用スライドの作成、チーム内発表練習）
3	第1回 中間発表（テーマ発表）
4	中間発表の批評を受けてテーマの再検討、制作作業
5	制作作業
6	制作作業
7	発表準備
8	第2回 中間発表（制作システムの何らかの画面や機能を最低限1つは見せること）
9	制作作業
10	制作作業・卒業論文執筆
11	制作作業・卒業論文執筆
12	制作作業・卒業論文執筆
13	第3回 卒業制作発表リハーサル（制作システムのデモを必ず含めること）
14	最終発表調整
15	第4回 卒業制作発表

## 【成績評価方法】

評価項目	試験・課題	小テスト	レポート	平常点	その他（発表）	合計
割合			30%		70%	100%

（補足）

- ・レポートや自習課題は必ず提出すること
- ・成績は100点を最高とし、60点以上を及第点とする。
- ・原則として欠席回数が1/3を超えた場合は、評価の対象としない。

## 【教員紹介】

大学院在学時より小学校ICT支援員とPCクラブ講師に従事。中学数学科・技術科、高校情報科の教員、専門学校にて外国人留学生に教えるなど様々な教育現場に従事した経験を持つ。

## 【教科書・参考文献】

なし

# 東京電子専門学校

開講課程		開講学科		開講年度		履修対象															
工業専門課程		情報処理科/システム開発コース		2025		2年 後期															
講義区分	授業形態	授業科目名		担当教員	実務経験	単位・時間数															
専門 選択	実習	卒業制作Ⅲ		安藤 真理	無	2単位 30時間															
<b>【授業の到達目標及びテーマ】</b> 6																					
学習の総決算として数千行規模以上のシステムを作成する。作業は1~3人で行い、プロジェクト管理についても経験する。また、学術発表の仕方を学ぶとともに、最終的には論文を執筆し提出してもらう。																					
<b>【講義概要】</b>																					
指導教員は、システムの全体設計に関わる相談、発表指導、論文指導のみを行う。細かい実装やデバッグ等に関する助言はしないため、独力あるいはチームで乗り越えられる力を養うこと。評価は、発表の出来を最も重視する。																					
回	授業計画及び学習の内容																				
1	チーム決め、リーダー等の役割決め、テーマ検討																				
2	テーマ検討、発表準備（プレゼンテーション用スライドの作成、チーム内発表練習）																				
3	第1回 中間発表（テーマ発表）																				
4	中間発表の批評を受けてテーマの再検討、制作作業																				
5	制作作業																				
6	制作作業																				
7	発表準備																				
8	第2回 中間発表（制作システムの何らかの画面や機能を最低限1つは見せること）																				
9	制作作業																				
10	制作作業・卒業論文執筆																				
11	制作作業・卒業論文執筆																				
12	制作作業・卒業論文執筆																				
13	第3回 卒業制作発表リハーサル（制作システムのデモを必ず含めること）																				
14	最終発表調整																				
15	第4回 卒業制作発表																				
<b>【成績評価方法】</b>																					
<table border="1"><thead><tr><th>評価項目</th><th>試験・課題</th><th>小テスト</th><th>レポート</th><th>平常点</th><th>その他（発表）</th><th>合計</th></tr></thead><tbody><tr><td>割合</td><td></td><td></td><td>30%</td><td></td><td>70%</td><td>100%</td></tr></tbody></table>								評価項目	試験・課題	小テスト	レポート	平常点	その他（発表）	合計	割合			30%		70%	100%
評価項目	試験・課題	小テスト	レポート	平常点	その他（発表）	合計															
割合			30%		70%	100%															
(補足) <ul style="list-style-type: none"><li>・レポートや自習課題は必ず提出すること</li><li>・成績は100点を最高とし、60点以上を及第点とする。</li><li>・原則として欠席回数が1/3を超えた場合は、評価の対象としない。</li></ul>																					
<b>【教員紹介】</b>																					
大学院在学時より小学校ICT支援員とPCクラブ講師に従事。中学数学科・技術科、高校情報科の教員、専門学校にて外国人留学生に教えるなど様々な教育現場に従事した経験を持つ。																					
<b>【教科書・参考文献】</b>																					
なし																					

# 東京電子専門学校

開講課程		開講学科		開講年度		履修対象	
工業専門課程		情報処理科/システム開発コース		2025		2年 前期	
講義区分	授業形態	授業科目名		担当教員	実務経験	単位・時間数	
専門	選択	エクスターンシップI		情報処理科 担当教員	無	4単位 60時間	
<b>【授業の到達目標及びテーマ】</b>							
実際に情報処理関連業務の就業を経験する							
<b>【講義概要】</b>							
情報処理関連業務へ就業し、実際の業務に携わることで業務経験を積む。その業務経験のレポートを作成する。							
回	授業計画及び学習の内容						
1	情報処理関連業務への就業を経験。 業務により得られた経験をレポートとして作成する。						
2							
3							
4							
5							
6							
7							
8							
9							
10							
11							
12							
13							
14							
15							
<b>【成績評価方法】</b>							
評価項目	試験・課題	小テスト	レポート	平常点	その他（ ）	合計	
割合	50% 50%					100%	
(補足)	<ul style="list-style-type: none"> <li>・成績は100点を最高とし、60点以上を及第点とする。</li> <li>・原則として欠席回数が1/3を超えた場合は、評価の対象としない。</li> <li>・レポートや自習課題は必ず提出すること。</li> </ul>						
<b>【教員紹介】</b>							
-							
<b>【教科書・参考文献】</b>							
-							

# 東京電子専門学校

開講課程		開講学科		開講年度		履修対象	
工業専門課程		情報処理科/システム開発コース		2025		2年 後期	
講義区分	授業形態	授業科目名		担当教員	実務経験	単位・時間数	
専門	選択	エクスターンシップⅡ		情報処理科 担当教員	無	4単位 60時間	
<b>【授業の到達目標及びテーマ】</b>							
実際に情報処理関連業務の就業を経験する							
<b>【講義概要】</b>							
情報処理関連業務へ就業し、実際の業務に携わることで業務経験を積む。その業務経験のレポートを作成する。							
回	授業計画及び学習の内容						
1	情報処理関連業務への就業を経験。 業務により得られた経験をレポートとして作成する。						
2							
3							
4							
5							
6							
7							
8							
9							
10							
11							
12							
13							
14							
15							
<b>【成績評価方法】</b>							
評価項目	試験・課題	小テスト	レポート	平常点	その他（ ）	合計	
割合	50%	50%				100%	
(補足)	<ul style="list-style-type: none"> <li>・成績は100点を最高とし、60点以上を及第点とする。</li> <li>・原則として欠席回数が1/3を超えた場合は、評価の対象としない。</li> <li>・レポートや自習課題は必ず提出すること。</li> </ul>						
<b>【教員紹介】</b>							
-							
<b>【教科書・参考文献】</b>							
-							

# 東京電子専門学校

開講課程		開講学科		開講年度		履修対象	
工業専門課程		情報処理科/システム開発コース		2025		2年 前期	
講義区分	授業形態	授業科目名		担当教員	実務経験	単位・時間数	
基礎専門	必修	セキュリティⅡ		久良知 眞紀子	有	2単位 30時間	
<b>【授業の到達目標及びテーマ】</b>							
情報セキュリティマネジメント試験の午前・午後問題分野について、要点確認と問題演習を行う。							
<b>【講義概要】</b>							
教科書の単元に沿って解説する。毎回、授業の最後に、その日の授業の範囲から出題した小テストを行う。							
回	授業計画及び学習の内容						
1	情報セキュリティ全般：単元01 情報セキュリティ						
2	情報セキュリティ全般：単元02 マルウェア、単元03 パスワードの不正入手/不正利用、						
3	情報セキュリティ全般：単元04 Webサイト利用者への攻撃、単元05 サービスの妨害/悪用、						
4	情報セキュリティ全般：単元06 人的脅威、単元07 物理的脅威/その他の脅威、						
5	情報セキュリティ全般：単元08 暗号化技術、単元09 認証技術						
6	情報セキュリティ全般：単元10 デジタル署名						
7	中間試験						
8	情報セキュリティ対策：単元11 マルウェア対策、単元12 不正アクセス対策						
9	情報セキュリティ対策：単元13ネットワークセキュリティ、単元14情報漏えい対策						
10	情報セキュリティ対策：単元15その他のセキュリティ対策						
11	情報セキュリティ管理：単元16 情報セキュリティマネジメント、単元17 ISMS						
12	情報セキュリティ管理：単元18 リスクマネジメント、単元19 情報セキュリティインシデント管理						
13	情報セキュリティ関連法規：単元20 情報セキュリティ関連法規						
14	総合問題						
15	期末試験						
<b>【成績評価方法】</b>							
評価項目	試験・課題	小テスト	レポート	平常点	その他（ ）	合計	
割合	80%			20%		100%	
(補足)	<ul style="list-style-type: none"> <li>成績は100点を最高とし、60点以上を及第点とする。</li> <li>原則として欠席回数が1/3を超えた場合は、評価の対象としない。</li> <li>レポートや自習課題は必ず提出すること。</li> </ul>						
<b>【教員紹介】</b>							
①銀行でシステム開発に従事（2年） ②IT企業で開発に従事（2年） ③起業し、システム開発、教育、翻訳、テクニカルライティング（20年） ④専門学校でIT系科目を担当（10年）							
<b>【教科書・参考文献】</b>							
情報セキュマネ試験 要点&問題集（インフォテックサーブ）							

# 東京電子専門学校

開講課程		開講学科		開講年度		履修対象															
工業専門課程		情報処理科/システム開発コース		2025		2年 後期															
講義区分	授業形態	授業科目名		担当教員	実務経験	単位・時間数															
基礎専門	選択	セキュリティⅢ		砂賀 勝己	無	2単位 30時間															
<b>【授業の到達目標及びテーマ】</b>																					
マイクロソフト/Windowsのセキュリティの基礎をベースに、セキュリティに関する素養を身につける。																					
<b>【講義概要】</b>																					
マイクロソフト/Windowsのセキュリティの基礎をベースに、セキュリティに関する素養を身につける。																					
回	授業計画及び学習の内容																				
1	セキュリティ基礎																				
2	セキュリティ基礎																				
3	攻撃手法																				
4	攻撃手法																				
5	ネットワークのセキュリティ																				
6	ネットワークのセキュリティ																				
7	中間試験																				
8	OSのセキュリティ																				
9	OSのセキュリティ																				
10	OSのセキュリティ																				
11	クライアントとサーバー、アプリケーションのセキュリティ																				
12	クライアントとサーバー、アプリケーションのセキュリティ																				
13	クラウドのセキュリティ																				
14	理解度確認																				
15	期末試験																				
<b>【成績評価方法】</b>																					
<table border="1"> <thead> <tr> <th>評価項目</th> <th>試験・課題</th> <th>小テスト</th> <th>レポート</th> <th>平常点</th> <th>その他（ ）</th> <th>合計</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>割合</td> <td>100%</td> <td></td> <td></td> <td></td> <td></td> <td>100%</td> </tr> </tbody> </table>								評価項目	試験・課題	小テスト	レポート	平常点	その他（ ）	合計	割合	100%					100%
評価項目	試験・課題	小テスト	レポート	平常点	その他（ ）	合計															
割合	100%					100%															
(補足) <ul style="list-style-type: none"> <li>・成績は100点を最高とし、60点以上を及第点とする。</li> <li>・原則として欠席回数が1/3を超えた場合は、評価の対象としない。</li> <li>・レポートや自習課題は必ず提出すること。</li> </ul>																					
<b>【教員紹介】</b>																					
教育機関にて学内のシステム・インフラ開発業務に従事 教員歴30年強. プログラム言語やネットワーク、サーバ系の授業を主に担当.																					
<b>【教科書・参考文献】</b>																					
-																					

# 東京電子専門学校

開講課程		開講学科		開講年度		履修対象	
工業専門課程		情報処理科/システム開発コース		2025		2年 前期	
講義区分	授業形態	授業科目名		担当教員	実務経験	単位・時間数	
専門基礎 必修	講義	基本情報対策Ⅳ(科目A対策Ⅱ)		成田与志子	無	2単位 30時間	
<b>【授業の到達目標及びテーマ】</b>							
基本情報技術者試験(FE)の科目A試験の合格を目指す。							
<b>【講義概要】</b>							
科目Aの試験は過去問が多く出題される。過去問をくり返し解き、合格点を目指す。免除試験合格、あるいはFE取得で本講義及び定期試験は免除とする。							
回	授業計画及び学習の内容						
1	最新の問題から順に、問題を見直す。小テスト。						
2	最新の問題から順に、問題を見直す。小テスト。						
3	最新の問題から順に、問題を見直す。小テスト。						
4	最新の問題から順に、問題を見直す。小テスト。						
5	最新の問題から順に、問題を見直す。小テスト。						
6	最新の問題から順に、問題を見直す。小テスト。						
7	中間試験						
8	最新の問題から順に、問題を見直す。小テスト。						
9	最新の問題から順に、問題を見直す。小テスト。						
10	最新の問題から順に、問題を見直す。小テスト。						
11	最新の問題から順に、問題を見直す。小テスト。						
12	最新の問題から順に、問題を見直す。小テスト。						
13	最新の問題から順に、問題を見直す。小テスト。						
14	最新の問題から順に、問題を見直す。小テスト。						
15	期末試験						
<b>【成績評価方法】</b>							
評価項目	試験・課題	小テスト	レポート	平常点	その他( )	合計	
割合	70%	20%		10%		100%	
(補足)	<ul style="list-style-type: none"> <li>・成績は100点を最高とし、60点を及第点とする。</li> <li>・原則として欠席回数が1/3を超えた場合は、評価の対象としない。</li> </ul>						
<b>【教員紹介】</b>							
情報学部の教員として、現在に至る。							
<b>【教科書・参考文献】</b>							
IPA公開の過去問を使用する。							

# 東京電子専門学校

開講課程		開講学科		開講年度		履修対象	
工業専門課程		情報処理科/システム開発コース		2025		2年 前期	
講義区分	授業形態	授業科目名		担当教員	実務経験	単位・時間数	
専門基礎 必修	講義	基本情報対策V(科目B対策II)		安藤 真理	無	2単位 30時間	
<b>【授業の到達目標及びテーマ】</b>							
基本情報技術者試験（F E）の取得を目指すため、科目Bの過去問などや主に出題されるアルゴリズムを学習する。							
<b>【講義概要】</b>							
基本情報技術者試験は過去問から出題されるので、過去問の学習および理解を深める。							
回	授業計画及び学習の内容						
1	基本情報技術者試験の科目Bについて 受験時の注意						
2	ソート①						
3	ソート②						
4	文字列処理①						
5	文字列処理②						
6	中間試験対策						
7	中間試験解説						
8	過去問対策（アルゴリズム小問①）						
9	過去問対策（アルゴリズム小問②）						
10	過去問対策（アルゴリズム大問①）						
11	過去問対策（アルゴリズム大問②）						
12	過去問対策（セキュリティ①）						
13	過去問対策（セキュリティ②）						
14	期末試験対策						
15	期末試験解説						
<b>【成績評価方法】</b>							
	評価項目	試験・課題	小テスト	レポート	平常点	その他（ ）	合計
	割合 (補足)	80%			20%		100%
<b>【教員紹介】</b>							
大学院在学時より小学校ICT支援員とPCクラブ講師に従事。中学数学科・技術科、高校情報科の教員、専門学校にて外国人留学生に教えるなど様々な教育現場に従事した経験を持つ。							
<b>【教科書・参考文献】</b>							
基本情報技術者[科目B]アルゴリズムとプログラミング トレーニング 問題集(第2版) (大原出版)							

# 東京電子専門学校

開講課程		開講学科		開講年度		履修対象															
工業専門課程		情報処理科/システム開発コース		2025		2年 前期															
講義区分	授業形態	授業科目名		担当教員	実務経験	単位・時間数															
専門基礎 選択	講義	国家試験対策 I		産学連携	無	2単位 30時間															
<b>【授業の到達目標及びテーマ】</b>																					
半期に一度集中講義の形で開講 ・基本情報技術者対策 社会人向けに資格対策講座を実施している教育ベンダと提携し、講師を派遣してもらい講義を行う。 ・ITパスポート対策																					
<b>【講義概要】</b>																					
回	授業計画及び学習の内容																				
1																					
2	★基本情報技術者対策																				
3	①「基本情報技術者試験の概要」																				
4	・出題傾向と学習方法																				
5	②「データ構造及びアルゴリズム」																				
6	・擬似言語の解き方、配列操作、探索アルゴリズム																				
7	③「データ構造及びアルゴリズム」																				
8	・文字列操作、文字列の比較、転記、圧縮 等																				
9	④「データ構造及びアルゴリズム」																				
10	・データ構造、スタック、木構造 等																				
11	⑤「データ構造及びアルゴリズム」																				
12	・その他のアルゴリズム 等																				
13	⑥「情報セキュリティ」																				
14	・暗号化技術、認証技術、不正アクセス対策																				
15	⑦「情報セキュリティ」																				
16	・ネットワークセキュリティ、情報セキュリティマネジメント、リスク管理																				
17	⑧本試験の受験、または模擬テスト																				
18	★ITパスポート対策																				
19	e-ラーニング講座																				
20	★情報セキュリティマネジメント																				
21	過去問題を中心に解説																				
22																					
<b>【成績評価方法】</b>																					
<table border="1"> <thead> <tr> <th>評価項目</th> <th>試験・課題</th> <th>小テスト</th> <th>レポート</th> <th>平常点</th> <th>その他（ ）</th> <th>合計</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>割合 (補足)</td> <td></td> <td></td> <td></td> <td>100%</td> <td></td> <td>100%</td> </tr> </tbody> </table>								評価項目	試験・課題	小テスト	レポート	平常点	その他（ ）	合計	割合 (補足)				100%		100%
評価項目	試験・課題	小テスト	レポート	平常点	その他（ ）	合計															
割合 (補足)				100%		100%															
<b>【教員紹介】</b>																					
<b>【教科書・参考文献】</b>																					

# 東京電子専門学校

開講課程		開講学科		開講年度		履修対象															
工業専門課程		情報処理科/システム開発コース		2025		2年 後期															
講義区分	授業形態	授業科目名		担当教員	実務経験	単位・時間数															
専門基礎 選択	講義	国家試験対策Ⅱ		産学連携	無	2単位 30時間															
<b>【授業の到達目標及びテーマ】</b>																					
半期に一度集中講義の形で開講 ・基本情報技術者対策 社会人向けに資格対策講座を実施している教育ベンダと提携し、講師を派遣してもらい講義を行う。 ・ITパスポート対策																					
<b>【講義概要】</b>																					
回	授業計画及び学習の内容																				
1																					
2	★基本情報技術者対策																				
3	①「基本情報技術者試験の概要」																				
4	・出題傾向と学習方法																				
5	②「データ構造及びアルゴリズム」																				
6	・擬似言語の解き方、配列操作、探索アルゴリズム																				
7	③「データ構造及びアルゴリズム」																				
8	・文字列操作、文字列の比較、転記、圧縮 等																				
9	④「データ構造及びアルゴリズム」																				
10	・データ構造、スタック、木構造 等																				
11	⑤「データ構造及びアルゴリズム」																				
12	・その他のアルゴリズム 等																				
13	⑥「情報セキュリティ」																				
14	・暗号化技術、認証技術、不正アクセス対策																				
15	⑦「情報セキュリティ」																				
16	・ネットワークセキュリティ、情報セキュリティマネジメント、リスク管理																				
17	⑧本試験の受験、または模擬テスト																				
18	★ITパスポート対策																				
19	e-ラーニング講座																				
20	★情報セキュリティマネジメント																				
21	過去問題を中心に解説																				
22																					
<b>【成績評価方法】</b>																					
<table border="1"> <thead> <tr> <th>評価項目</th> <th>試験・課題</th> <th>小テスト</th> <th>レポート</th> <th>平常点</th> <th>その他（ ）</th> <th>合計</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>割合 (補足)</td> <td></td> <td></td> <td></td> <td>100%</td> <td></td> <td>100%</td> </tr> </tbody> </table>								評価項目	試験・課題	小テスト	レポート	平常点	その他（ ）	合計	割合 (補足)				100%		100%
評価項目	試験・課題	小テスト	レポート	平常点	その他（ ）	合計															
割合 (補足)				100%		100%															
<b>【教員紹介】</b>																					
<b>【教科書・参考文献】</b>																					

# 東京電子専門学校

開講課程		開講学科	開講年度	履修対象	
工業専門課程		情報処理科/システム開発コース	2025	2年 前期	
講義区分	授業形態	授業科目名	担当教員	実務経験	単位・時間数
基礎専門 選択	講義	セキュリティマネジメント対策Ⅲ	産学連携	無	2単位 30時間

## 【授業の到達目標及びテーマ】

国家試験 情報セキュリティマネジメント の試験対策講座。  
原則として本試験の受験をすることを受講条件とする。

## 【講義概要】

半期に一度集中講義の形で開講。  
社会人向けに資格対策講座を実施している教育ベンダと提携し、講師を派遣してもらい講義を行う。  
Iと同じ内容だが、I II受講者で資格未取得者は再度受講ができる。

回	授業計画及び学習の内容
1	
2	
3	①「情報セキュリティマネジメント試験の概要」 ・出題傾向と学習方法
4	②「情報セキュリティ全般」 ・情報セキュリティの概念、マルウェア、パスワードの不正入手/不正利用
5	③「情報セキュリティ全般」 ・Webサイト利用者への攻撃、サービスの妨害/悪用、人的脅威/物理的脅威/その他の脅威
6	④「情報セキュリティ全般」 ・暗号化技術/認証技術、デジタル署名
7	⑤「情報セキュリティ対策」 ・マルウェア対策、不正アクセス対策
8	⑥「情報セキュリティ対策」 ・ネットワークセキュリティ、情報漏えい対策、その他のセキュリティ対策
9	⑦「情報セキュリティ管理」 ・情報セキュリティマネジメント、ISMS、リスクマネジメント
10	⑧「情報セキュリティ管理」 ・情報セキュリティインシデント管理
11	⑨「情報セキュリティ関連法規」 ・情報セキュリティ関連法規
12	
13	
14	
15	

## 【成績評価方法】

評価項目	試験・課題	小テスト	レポート	平常点	その他（ ）	合計
割合				100%		100%

(補足)

- ・成績は100点を最高とし、60点以上を及第点とする。
- ・原則として欠席回数が1/3を超えた場合は、評価の対象としない。
- ・レポートや自習課題は必ず提出すること。

## 【教員紹介】

-

## 【教科書・参考文献】

-

# 東京電子専門学校

開講課程		開講学科		開講年度		履修対象															
工業専門課程		情報処理科/システム開発コース		2025		2年 前期															
講義区分	授業形態	授業科目名		担当教員	実務経験	単位・時間数															
基礎専門 選択	実習	MOS対策Ⅲ		砂賀 勝己	無	2単位 30時間															
<b>【授業の到達目標及びテーマ】</b>																					
マイクロソフトMOS資格の対策講座。 原則として資格試験の受験を目指すことを受講条件とする。																					
<b>【講義概要】</b>																					
模擬試験ソフトを使用し、繰り返し練習を行う																					
回	授業計画及び学習の内容																				
1	<p>模擬問題ソフトを繰り返し練習し、ランダム出題で80%以上の点数取得を目指す。</p>																				
2																					
3																					
4																					
5																					
6																					
7																					
8																					
9																					
10																					
11																					
12																					
13																					
14																					
15																					
<b>【成績評価方法】</b>																					
<table border="1"> <thead> <tr> <th>評価項目</th> <th>試験・課題</th> <th>小テスト</th> <th>レポート</th> <th>平常点</th> <th>その他（ ）</th> <th>合計</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>割合</td> <td></td> <td></td> <td></td> <td>100%</td> <td></td> <td>100%</td> </tr> </tbody> </table>								評価項目	試験・課題	小テスト	レポート	平常点	その他（ ）	合計	割合				100%		100%
評価項目	試験・課題	小テスト	レポート	平常点	その他（ ）	合計															
割合				100%		100%															
(補足) <ul style="list-style-type: none"> <li>・成績は100点を最高とし、60点以上を及第点とする。</li> <li>・原則として欠席回数が1/3を超えた場合は、評価の対象としない。</li> <li>・レポートや自習課題は必ず提出すること。</li> </ul>																					
<b>【教員紹介】</b>																					
教育機関にて学内のシステム・インフラ開発業務に従事 教員歴30年強. プログラム言語やネットワーク、サーバ系の授業を主に担当.																					
<b>【教科書・参考文献】</b>																					
-																					

# 東京電子専門学校

開講課程		開講学科	開講年度		履修対象
工業専門課程		情報処理科/システム開発コース	2025		2年 通年
講義区分	授業形態	授業科目名	担当教員	実務経験	単位・時間数
基礎専門 選択	講義	ITDX論文研究	情報処理科 担当教員	無	4単位 60時間

## 【授業の到達目標及びテーマ】

ITやDXに関する論文を研究し、自ら論文形式のレポートの作成も行う。

## 【講義概要】

I情報技術の知識と共にアカデミックな論文の書き方を研究し、自らも論文形式のレポートの作成を行う。

回	授業計画及び学習の内容
1	
2	
3	
4	
5	
6	
7	
8	学術論文の研究。論文形式のレポートの作成。
9	
10	
11	
12	
13	
14	
15	

## 【成績評価方法】

評価項目	試験・課題	小テスト	レポート	平常点	その他（ ）	合計
割合 (補足)			100%			100%

- ・成績は100点を最高とし、60点以上を及第点とする。
- ・原則として欠席回数が1/3を超えた場合は、評価の対象としない。
- ・レポートや自習課題は必ず提出すること。

## 【教員紹介】

-

## 【教科書・参考文献】

-

# 東京電子専門学校

開講課程		開講学科		開講年度		履修対象															
工業専門課程		情報処理科/システム開発コース		2025		2年 後期															
講義区分	授業形態	授業科目名		担当教員	実務経験	単位・時間数															
基礎専門	選択	社会人教養 (IT系)		情報処理科 担当教員	無	2単位 30時間															
<b>【授業の到達目標及びテーマ】</b>																					
社会人として身に着けるべき教養を学ぶ																					
<b>【講義概要】</b>																					
e-ラーニングにより社会人として身に着けるべき教養を学習する。この科目ではIT系の知識を学習する。																					
回	授業計画及び学習の内容																				
1	e-ラーニングの内容によって異なる。 設定されている学修時間を満たすことにより単位認定が行われる。																				
2																					
3																					
4																					
5																					
6																					
7																					
8																					
9																					
10																					
11																					
12																					
13																					
14																					
15																					
<b>【成績評価方法】</b>																					
<table border="1"> <thead> <tr> <th>評価項目</th> <th>試験・課題</th> <th>小テスト</th> <th>レポート</th> <th>平常点</th> <th>その他 ( )</th> <th>合計</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>割合</td> <td>50% 50%</td> <td></td> <td></td> <td></td> <td></td> <td>100%</td> </tr> </tbody> </table>								評価項目	試験・課題	小テスト	レポート	平常点	その他 ( )	合計	割合	50% 50%					100%
評価項目	試験・課題	小テスト	レポート	平常点	その他 ( )	合計															
割合	50% 50%					100%															
(補足) ・成績は100点を最高とし、60点を及第点とする。 ・原則として欠席回数が1/3を超えた場合は、評価の対象としない。 ・レポートや自習課題は必ず提出すること。																					
<b>【教員紹介】</b>																					
-																					
<b>【教科書・参考文献】</b>																					
-																					

# 東京電子専門学校

開講課程		開講学科		開講年度		履修対象	
工業専門課程		情報処理科/システム開発コース		2025		2年 通年	
講義区分	授業形態	授業科目名		担当教員	実務経験	単位・時間数	
基礎専門	選択	社会人教養（資格取得系）		情報処理科 担当教員	無	2単位 30時間	
<b>【授業の到達目標及びテーマ】</b>							
社会人として身に着けるべき教養を学ぶ							
<b>【講義概要】</b>							
e-ラーニングにより社会人として身に着けるべき教養を学習する。この科目では資格取得を目的とした学習を行う。							
回	授業計画及び学習の内容						
1	e-ラーニングの内容によって異なる。 設定されている学修時間を満たすことにより単位認定が行われる。						
2							
3							
4							
5							
6							
7							
8							
9							
10							
11							
12							
13							
14							
15							
<b>【成績評価方法】</b>							
評価項目	試験・課題	小テスト	レポート	平常点	その他（ ）	合計	
割合	50% 50%					100%	
(補足) ・成績は100点を最高とし、60点以上を及第点とする。 ・原則として欠席回数が1/3を超えた場合は、評価の対象としない。 ・レポートや自習課題は必ず提出すること。							
<b>【教員紹介】</b>							
-							
<b>【教科書・参考文献】</b>							
-							

# 東京電子専門学校

開講課程		開講学科	開講年度	履修対象	
工業専門課程		情報処理科/システム開発コース	2025	2年 前期	
講義区分	授業形態	授業科目名	担当教員	実務経験	単位・時間数
一般教育 必修	講義	一般常識Ⅱ	唐戸 民雄	無	2単位 30時間

## 【授業の到達目標及びテーマ】

基本的な計算力、一般的な漢字の読み、社会科系統・理科系統の基本的な知識を再確認する。

## 【講義概要】

言語事項の確認、社会科系統（地理・歴史・政治経済）、理科系統（物理・化学・地学・生物）などの基礎知識、就職試験、SPIなどでも出題される早さ、通貨算、鶴亀算などを確認する。毎回、確認テストを行う。回数が前後する場合もある。

回	授業計画及び学習の内容				
1	言語事項の確認	諸所の分野	四則演算1	文章題1(仕事算)	確認点スト1
2	言語事項の確認	諸所の分野	四則演算2	文章題2(年齢算)	確認点スト2
3	言語事項の確認	諸所の分野	四則演算3	文章題3(植木算)	確認点スト3
4	言語事項の確認	諸所の分野	四則演算4	文章題4	確認点スト4
5	言語事項の確認	諸所の分野	四則演算5	文章題5	確認点スト5
6	言語事項の確認	諸所の分野	四則演算6	文章題6	確認点スト6
7	言語事項の確認	諸所の分野	四則演算7	文章題7	確認点スト7
8	中間試験				
9	言語事項の確認	諸所の分野	四則演算8	文章題8	確認点スト8
10	言語事項の確認	諸所の分野	四則演算9	文章題9	確認点スト9
11	言語事項の確認	諸所の分野	四則演算10	文章題10	確認点スト10
12	言語事項の確認	諸所の分野	四則演算11	文章題11	確認点スト11
13	言語事項の確認	諸所の分野	四則演算12	文章題12	確認点スト12
14	言語事項の確認	諸所の分野	四則演算13	文章題13	確認点スト13
15	期末試験				

## 【成績評価方法】

評価項目	試験・課題	小テスト	レポート	平常点	その他( )	合計
割合	80%	10%		10%		100%

(補足) ・成績は100点を最高とし、60点以上を及第点とする。  
 ・原則として欠席回数が1/3を超えた場合は、評価の対象としない。  
 ・レポートや自習課題は必ず提出すること。

## 【教員紹介】

四半世紀にわたり、東京電子専門学校において、表現技法、一般常識を担当してきました。また、他の専門学校で論文作成を、都の職業訓練校でビジネス関係の科目を教えてきました。

## 【教科書・参考文献】

授業時にプリントを配付する。

# 東京電子専門学校

開講課程		開講学科		開講年度		履修対象															
工業専門課程		情報処理科/システム開発コース		2025		2年 前期															
講義区分	授業形態	授業科目名		担当教員	実務経験	単位・時間数															
一般教育 必修	講義	Python English 基礎英語Ⅱ		Tope Salami	有	2単位 30時間															
<b>【授業の到達目標及びテーマ】</b>																					
英語でパイソンプログラミングを学習し終了時には簡単なプログラミングができるようにする。																					
<b>【講義概要】</b>																					
TOPE先生が担当し英語で授業を行う。実際にパイソンを使いながら実習形式で受領を行う。																					
回	授業計画及び学習の内容																				
1	自己紹介、英語の訳し方、伝え方、このクラスの目標																				
2	Introducing Python																				
3	Conversing with Python																				
4	Writing a Program (Python Script)																				
5	確認照合用!A1																				
6	Review																				
7	Mid term test																				
8	5/7																				
9	Create your first Program																				
10	Create your first Program #2																				
11	Comments and Errors #1																				
12	Comments and Errors #2																				
13	Variables																				
14	Review																				
15	Final test																				
<b>【成績評価方法】</b>																					
<table border="1"> <thead> <tr> <th>評価項目</th> <th>試験・課題</th> <th>小テスト</th> <th>レポート</th> <th>平常点</th> <th>その他（ ）</th> <th>合計</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>割合</td> <td>100%</td> <td></td> <td></td> <td></td> <td></td> <td>100%</td> </tr> </tbody> </table>								評価項目	試験・課題	小テスト	レポート	平常点	その他（ ）	合計	割合	100%					100%
評価項目	試験・課題	小テスト	レポート	平常点	その他（ ）	合計															
割合	100%					100%															
(補足) ・成績は100点を最高とし、60点以上を及第点とする。 ・原則として欠席回数が1/3を超えた場合は、評価の対象としない。 ・レポートや自習課題は必ず提出すること。																					
<b>【教員紹介】</b>																					
Tope Salami : IT関連会社運営、カナダ、サウジアラビア、日本で合計12年の英語関連、Pythonプログラミング関連の実務経験。生徒が授業に積極的に参加する雰囲気作りに情熱を注いでいる。”																					
<b>【教科書・参考文献】</b>																					
-																					

# 東京電子専門学校

開講課程		開講学科		開講年度		履修対象	
工業専門課程		情報処理科/システム開発コース		2025		2年 前期	
講義区分	授業形態	授業科目名		担当教員	実務経験	単位・時間数	
一般教育 選択	講義	表現技法		唐戸 民雄	無	2単位 30時間	
<b>【授業の到達目標及びテーマ】</b>							
前半では日本語についての再確認をする。些細なことでもかまわないので、自分たちの言葉についての意識を持って欲しい。後半は、社会人として仕事していく上での基本、ビジネス文書について学ぶ。							
<b>【講義概要】</b>							
普段使っている日本語を見直す。また、ビジネスの現場での文書の意義、働き、流れ等を確認する。社会人としての基本を身につける。毎回、日本語の語彙に関する確認の小テストを行う。その他、適宜、講義内容に関連する新たな話題を紹介することもある。大きくシラバスから逸脱することはないが、内容が少し変わることもある。							
回	授業計画及び学習の内容						
1	表現とは何か						
2	表現本能 表現行為 言語について						
3	日本語について1 他言語との比較 日本語の特徴 語彙の面から①						
4	日本語の特徴 語彙の面から② 表記の面から など						
5	日本語の文体 音声言語と文字言語の相違						
6	文章の構成 横書き原稿用紙の使い方						
7	読点の付け方 中間試験対策						
8	中間試験						
9	ビジネス文書 概説 問題演習						
10	ビジネス文書 社内文書① 問題演習						
11	ビジネス文書 社内文書② 問題演習						
12	ビジネス文書 社外文書① 問題演習						
13	ビジネス文書 社外文書② 問題演習						
14	ビジネス文書 まとめ 確認演習問題						
15	期末試験						
<b>【成績評価方法】</b>							
	評価項目	試験・課題	小テスト	レポート	平常点	その他 ( )	合計
	割合	80%	10%		10%		100%
	(補足)	<ul style="list-style-type: none"> <li>・成績は100点を最高とし、60点以上を及第点とする。</li> <li>・原則として欠席回数が1/3を超えた場合は、評価の対象としない。</li> <li>・レポートや自習課題は必ず提出すること。</li> </ul>					
<b>【教員紹介】</b>							
四半世紀にわたり、東京電子専門学校において、表現技法、一般常識を担当してきました。また、他の専門学校で論文作成を、都の職業訓練校でビジネス関係の科目を教えてきました。							
<b>【教科書・参考文献】</b>							
授業時にプリントを配布する。							

# 東京電子専門学校

開講課程		開講学科		開講年度		履修対象															
工業専門課程		情報処理科/システム開発コース		2025		2年 通年															
講義区分	授業形態	授業科目名		担当教員	実務経験	単位・時間数															
一般教育 必修	実習	体育実習Ⅱ		情報処理科 担当教員	無	2単位 30時間															
<b>【授業の到達目標及びテーマ】</b>																					
<p>運動や、課外活動、学園祭を通して、健全な身体と精神を育む。                      ハイキングは、自然の多い公園などをおおむね 4時間程度歩き、心身のバランスを図ります。                      学園祭は、各種催し物の企画、準備、実施、参加により、協調性を養います。                      心身の健全な育成を目指しています。</p>																					
<b>【講義概要】</b>																					
この授業は、春と秋のハイキング、学園祭（準備2日間、学園祭2日間）の参加を以て、評価します。																					
回	授業計画及び学習の内容																				
1																					
2	春のハイキング																				
3																					
4																					
5	学園祭準備（1日目、2日目）																				
6																					
7																					
8	学園祭（1日目）																				
9																					
10																					
11	学園祭（2日目）、後片付け																				
12																					
13																					
14	-																				
15																					
<b>【成績評価方法】</b>																					
<table border="1"> <thead> <tr> <th>評価項目</th> <th>試験・課題</th> <th>小テスト</th> <th>レポート</th> <th>平常点</th> <th>その他（ ）</th> <th>合計</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>割合 (補足)</td> <td></td> <td></td> <td></td> <td>100%</td> <td></td> <td>100%</td> </tr> </tbody> </table> <p>・成績は100点を最高とし、60点以上を及第点とする。                      ・原則として欠席回数が1/3を超えた場合は、評価の対象としない。                      ・レポートや自習課題は必ず提出すること。</p>								評価項目	試験・課題	小テスト	レポート	平常点	その他（ ）	合計	割合 (補足)				100%		100%
評価項目	試験・課題	小テスト	レポート	平常点	その他（ ）	合計															
割合 (補足)				100%		100%															
<b>【教員紹介】</b>																					
-																					
<b>【教科書・参考文献】</b>																					
-																					

# 東京電子専門学校

開講課程		開講学科		開講年度		履修対象															
工業専門課程		情報処理科/システム開発コース		2025		2年 通年															
講義区分	授業形態	授業科目名		担当教員	実務経験	単位・時間数															
一般教育 選択	実習	体育実習Ⅲ		情報処理科 担当教員	無	2単位 30時間															
<b>【授業の到達目標及びテーマ】</b>																					
<p>運動や、課外活動、学園祭を通して、健全な身体と精神を育む。                      ハイキングは、自然の多い公園などをおおむね 4時間程度歩き、心身のバランスを図ります。                      学園祭は、各種催し物の企画、準備、実施、参加により、協調性を養います。                      心身の健全な育成を目指しています。</p>																					
<b>【講義概要】</b>																					
この授業は、春と秋のハイキング、学園祭（準備2日間、学園祭2日間）の参加を以て、評価します。																					
回	授業計画及び学習の内容																				
1																					
2	春のハイキング																				
3																					
4																					
5	学園祭準備（1日目、2日目）																				
6																					
7																					
8	学園祭（1日目）																				
9																					
10																					
11	学園祭（2日目）、後片付け																				
12																					
13																					
14	-																				
15																					
<b>【成績評価方法】</b>																					
<table border="1"> <thead> <tr> <th>評価項目</th> <th>試験・課題</th> <th>小テスト</th> <th>レポート</th> <th>平常点</th> <th>その他（ ）</th> <th>合計</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>割合 (補足)</td> <td></td> <td></td> <td></td> <td>100%</td> <td></td> <td>100%</td> </tr> </tbody> </table> <p>・成績は100点を最高とし、60点以上を及第点とする。                      ・原則として欠席回数が1/3を超えた場合は、評価の対象としない。                      ・レポートや自習課題は必ず提出すること。</p>								評価項目	試験・課題	小テスト	レポート	平常点	その他（ ）	合計	割合 (補足)				100%		100%
評価項目	試験・課題	小テスト	レポート	平常点	その他（ ）	合計															
割合 (補足)				100%		100%															
<b>【教員紹介】</b>																					
-																					
<b>【教科書・参考文献】</b>																					
-																					

# 東京電子専門学校

開講課程		開講学科		開講年度		履修対象	
工業専門課程		情報処理科/システム開発コース		2025		2年 通年	
講義区分	授業形態	授業科目名		担当教員	実務経験	単位・時間数	
一般教育 選択	講義	社会人教養 (非IT系)		情報処理科 担当教員	無	2単位 30時間	

## 【授業の到達目標及びテーマ】

社会人として身に着けるべき教養を学ぶ

## 【講義概要】

e-ラーニングにより社会人として身に着けるべき教養を学習する。この科目では非IT系の知識を学習する。

回	授業計画及び学習の内容
1	
2	
3	
4	
5	
6	
7	
8	e-ラーニングの内容によって異なる。 設定されている学修時間を満たすことにより単位認定が行われる。
9	
10	
11	
12	
13	
14	
15	

## 【成績評価方法】

評価項目	試験・課題	小テスト	レポート	平常点	その他 ( )	合計
割合	50% 50%					100%

(補足)

- ・成績は100点を最高とし、60点以上を及第点とする。
- ・原則として欠席回数が1/3を超えた場合は、評価の対象としない。
- ・レポートや自習課題は必ず提出すること。

## 【教員紹介】

## 【教科書・参考文献】

# 東京電子専門学校

開講課程		開講学科		開講年度		履修対象															
工業専門課程		情報処理科/システム開発コース		2025		2年 通年															
講義区分	授業形態	授業科目名		担当教員	実務経験	単位・時間数															
一般教育 選択	実習	課外活動Ⅱ		情報処理科 担当教員	無	1単位 15時間															
<b>【授業の到達目標及びテーマ】</b>																					
インターンシップで就業体験をしたり、企業との産学連携事業を通して特別授業やセミナーを受講、外部の勉強会やコンテスト参加など、就職に役立つ知識の習得や最新の技術動向に触れるなど、学内の授業だけでは体験できないことを経験する。																					
<b>【講義概要】</b>																					
参加した時間数に応じて1次元単位時間を超えた場合に1単位を認定する																					
回	授業計画及び学習の内容																				
1	インターンシップ、企業が実施する特別授業、セミナー受講、外部の勉強会参加、コンテスト参加など																				
2																					
3																					
4																					
5																					
6																					
7																					
8																					
9																					
10																					
11																					
12																					
13																					
14																					
15																					
<b>【成績評価方法】</b>																					
<table border="1"> <thead> <tr> <th>評価項目</th> <th>試験・課題</th> <th>小テスト</th> <th>レポート</th> <th>平常点</th> <th>その他(出席と取り組む姿勢)</th> <th>合計</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>割合</td> <td></td> <td></td> <td></td> <td>50%</td> <td>50%</td> <td>100%</td> </tr> </tbody> </table>								評価項目	試験・課題	小テスト	レポート	平常点	その他(出席と取り組む姿勢)	合計	割合				50%	50%	100%
評価項目	試験・課題	小テスト	レポート	平常点	その他(出席と取り組む姿勢)	合計															
割合				50%	50%	100%															
(補足) <ul style="list-style-type: none"> <li>・成績は100点を最高とし、60点以上を及第点とする。</li> <li>・原則として欠席回数が1/3を超えた場合は、評価の対象としない。</li> <li>・レポートや自習課題は必ず提出すること。</li> </ul>																					
<b>【教員紹介】</b>																					
-																					
<b>【教科書・参考文献】</b>																					
-																					